

【認知症対応型共同生活介護】

作成日 平成21年11月10日

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0572206944
法人名	琴丘ふくし会
事業所名	やすらぎホーム希望の家
所在地	秋田県山本郡三種町鹿渡字町後256 (電話) 0185-72-2666
評価機関名	財団法人秋田県長寿社会振興財団
所在地	秋田市御所野下堤5丁目1-1
訪問調査日	平成21年11月4日

【情報提供票より】(21年10月19日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成14年1月1日
ユニット数	1 ユニット
職員数	7人
利用定員数計	9人
常勤	7人
非常勤	人
常勤換算	7人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	1階建ての ~1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	9,600 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,380 円		

(4) 利用者の概要(11月4日現在)

利用者人数	9名	男性	3名	女性	6名
要介護1	2名	要介護2		5名	
要介護3	2名	要介護4		0名	
要介護5	0名	要支援2		0名	
年齢	平均 84歳	最低	76歳	最高	92歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	鹿渡内科医院、長信田の森診療クリニック、湖東病院、鈴木歯科医院
---------	---------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

国道沿いにある特別養護老人ホームを母体とした敷地内にデイサービスと共に建てられ、ログハウス調の内部は木肌の温もりがあり、共有スペースには天井から光りが差し込んでいる。壁には利用者と共に作った押し花やコサージュ、写真がきれいに飾られ、心地良い空間となっている。日常的に食事の下ごしらえや後片づけ、掃除等の役割を持ち、外出や買い物、押し花教室等の支援により、一人ひとりが生き生きと生活し、理念通り「自分らしく当たり前の生活を支えていく」ことを実践しているホームである。また、母体施設との連携により、日々安心して生活できる協力体制もとっている。職員は共に過ごすことで入居者から様々なことを学び、自己の介護観を形成しながら、より質の高いケアの提供に向けて取り組んでいる。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価では口頭で「食事作りについて」の検討を促されており、現在は野菜の皮むきなどの下ごしらえや盛りつけ、後片づけを毎回行い、「調理の日」「おやつ作りの日」を設けることで一人ひとりの力を活かし、楽しみながら機能維持されるよう支援されている。</p> <p>今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者、職員は自己評価に取り組むことで、自分たちのケア内容を点検し、利用者が自分らしく、生き生きと心地良く生活が送られるように努めている。</p>
	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は3ヶ月に1回のペースで利用者も参加し開催されている。日常生活状況や各評価結果を報告し、会議での意見や提案事項を受け入れケアの質の向上に向けて取り組んでいる。</p>
重点項目②	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>ホームでの利用者の様子を面会時や月1回の家族通信で定期的に報告している。管理者、職員はいつも家族に意見や要望がないかを伺い、運営改善に努めているが、苦情受付書については、直接管理者や職員に手渡す形式なので、苦情箱を設置することにより、更に意見や要望を聞き出しやすくなり、運営に繋げていくことに期待する。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>ホーム内での定期的な押し花教室の開催や町の行事、母体施設の地域交流会への参加や日常的な散歩、買い物を通じて地域の方々との交流に努めている。</p>
重点項目④	

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「自分らしくあたり前の生活を支えていく」という理念の下、日常生活では笑顔を引き出しながら安心と尊厳ある生活となるよう取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 運営者と管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ダイルームや事務室に理念や目標を掲示し、運営者、管理者、職員は理念を共有したケアの実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町の文化祭に参加したり、町内のお店に買い物に出掛けたり、地域の人との会話を楽しんだり交流をしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価や外部評価の結果を全員で共有し、反省点を見だし、改善に向けて取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3ヶ月に1回、地域包括支援センター職員や自治会長、家族、入居者に参加していただき、各評価結果や現況説明を行い、そこでの意見は事業所の運営に活かされている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町の担当者とは利用者の状況を伝えたり、様々な情報を頂くなどし、スムーズに連携できる体制ができている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	「希望の家だより」で、利用者の暮らしぶりが伝わるように写真の掲載を多くして定期的に発行している。また、毎月金銭出納状況も報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関先に苦情受付書を配置し、意見や要望等を聞き出す取り組みをしているが、苦情受付書は、直接手渡すことになっており、家族にとって提出し辛い状況となっている。	○	苦情箱を設置する等、匿名で意見・要望を言えるよう工夫し、更に意見や要望を出して頂く事で運営やサービスの向上に繋げることを期待する。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は最小限とし、異動があった場合でも、前任者との引き継ぎを十分に行なっている。また、一日も早く馴染みの関係を築けるよう全職員で協力しながら取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、運営者自身や管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で研修計画を作成し、職員の経験やレベルに応じて外部研修に参加している。また、内部研修も定期的を開催し職員の質の向上を常に目指している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、運営者自身や管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県及び地域のグループホーム連絡協議会に加入し、同業者との交流で様々な情報交換を行っている。また、相互訪問の活動により質の向上にも取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう本人又は家族等と相談しながら工夫している	利用前に利用者や家族に見学していただき、一日の流れや雰囲気を覚えてもらいながら交流し、安心して自分の納得するサービスを利用できるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者と共に過ごす中で、利用者から教えてもらい、話を聞かせてもらいながら日常生活を支援することで、自己の介護観も形成し育てている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	管理者、職員は利用者一人ひとりの思いに関心を持ち、常に利用者の立場になり理解するよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	面会時や電話で家族の要望を聞き出し、介護計画に反映させている。また、本人の生活歴を把握し、意欲的な生活が送られるよう全職員に意見を出してもらい、その人らしい介護計画がとなるように努めている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ヶ月毎に見直しを行い、モニタリングも実施されている。利用者に変化が生じた場合は、家族や職員に意見を出してもらい、随時介護計画の見直しも行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の要望に添った外出支援を行い、医療機関との連携や受診についても柔軟な支援がされている。また、法人施設との交流や法人看護師の協力も行われている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週1回、かかりつけ医の往診があり、いつでも相談できる体制にある。また、必要に応じて他の病院を紹介するなどの連携も図られている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時に利用者、家族へは法人全体の在り方やホームとしての機能を説明している。重度化、終末期に向けたケア体制については全職員が共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	暖かく親しみのある言葉かけで誇りやプライバシーに配慮した支援を行っている。また、記録等は事務室内の書庫に保管されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを把握し、思いに沿った一日になるよう生活援助されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は母体施設から提供されているものの、野菜等の皮むきや盛りつけ、後片づけが行われている。また、月に2回の「調理の日」や「おやつ作りの日」を設け、献立、買い物、調理を入居者主体で行っている。また、週末にはお酒を提供し、楽しい夕食となっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて、入浴を楽しむように支援している	利用者の健康状態を把握した上で、毎日入浴支援を行っている。入浴したくない利用者の方には個別で入浴のための予定表を作成して、曜日、時間等に捉われることなく支援を実施している。また、夜間浴も実施している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人の習慣や希望を踏まえて、一人ひとりの役割や楽しみごとを作り出している。また、午前・午後とテレビ体操を毎日行うことで機能維持に努め、その人らしい暮らしの継続を支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や希望を考慮し、積極的に散歩やドライブ、買い物等外出支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに努めている	日中は施錠せず、利用者の見守りへ努めている。玄関センサーにより安全にも配慮している。ホームのすぐそばが湯であり、夜間のみ施錠している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、消防署立ち会いのもと、災害マニュアルに沿って避難訓練を実施している。また、緊急連絡網には地域の消防分団長も入っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の栄養士が作成した献立により栄養バランスが管理されており、状況により形態を変えて支援を行っている。	○	カロリーの過不足や栄養の偏り、水分不足等の変化が生じた場合や、飲食量の低下を防いだり、いざ低下した場合に、適切な対応の基礎となるものとして、全員の摂取量の記録をすることが望ましい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や臭いや光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ログハウス調の建物の内部は木肌のぬくもりがあり、光が差し込む共有スペースは適度に光の調整がされている。ソファや畳のスペースがあり、利用者が思い思いに過ごせるよう確保されている。季節感ある壁面作りなどで心地良い空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に本人が使い慣れた物や気に入っている物を持ち込んでもらい、安心して居心地良く過ごせるよう配慮されている。		

※ は、重点項目。